キャラクター名
木場　桐葉(きば きりは)

プレイヤー名

シンドローム	ノイマン ノイマン	ワークス	レネゲイドビーイングA	カヴァー	高校生
オプショナル		年齢	17	性別	女
覚醒	渇望	衝動	殺戮	初期侵食率	44 %
出自	使命	経験	殺戮の日々	邂逅	腐れ縁

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	0	1	0			1
感覚	0	0	0	1		1
精神	6	0	0			6
社会	2	0	0			2

HP	28
行動値	8
(非装備時)	8
戦闘移動	13
全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	5		射撃	1		ＲＣ			交渉		
回避	1		知覚	1		意志	2		調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：噂話	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
彼岸・鬼吼き		0	3	10		効果が持続しているEロイスひとつを解除できる
睡蓮	白兵	12r+21	3	10		
鬼灯	白兵	13r+21				侵蝕値9　60%以上
黒百合	白兵	14r+21				侵蝕値9　80%以上

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
コネ：UGN幹部	
コネ：情報屋	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
Dロイス：遺産継承者	P	N		
タイガーアイ	P	N		
同志	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:　4	残り財産P：　2

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
ヒューマンズネイバー	1		常時	至近	自身	自動	RB	
効果：衝動判定+[Ｌｖ]Ｄ								
オリジン：レジェンド	4	2	マイナー	至近	自身	自動	RB	
効果：【精神】を使った判定の達成値+[Lv*2]								
クイックモーション	1	2	マイナー	至近	自身	自動		
効果：エフェクト以外の行動を行う								
コンセントレイト：ノイマン	2	2	メジャー		-	シンドローム		
効果：c値-Ｌｖ								
コンバットシステム	5	3	メジャー		-	〈白兵〉		
効果：判定ダイス+[Ｌｖ+1]								
コントロールソート	1	2	メジャー	武器	-	〈白兵〉		
効果：【精神】で判定を行う								
スキルフォーカス	5	2	メジャー		-	〈白兵〉		
効果：白兵判定の達成値+[Lv*2]								
代謝制御	★							
効果：								
暗号解読	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

別名『ジャーム狩り』
ボクっ娘
剣術を修めている。『彼岸・鬼吼き』の身体能力強化を受けているため割と強い。
家の蔵に保管してあった遺産『彼岸・鬼吼き』を抜いてしまい支配されかけるも、持ち前の頭の回転で切り抜け、彼に協力することになる。
好物は甘いもの。特にお団子

『彼岸・鬼吼き』
桐葉に共生しているレネゲイドビーイング。
斬ったジャームの能力を無効化する力を持つ。
始めは桐葉を支配しようとしていたが、「ボクがいればもっと効率的にジャーム？を殺せると思うよ！」と言われ協力関係になった。
彼女の頭脳をとても高く評価しており、少し助言をする程度で勝手に考えて行動してくれるため支配するよりもずっと楽だということに最近気づき出した。
その正体は、遥か昔より「鬼」と呼ばれる存在を斬り続けた刀がレネゲイドビーイングとして覚醒したものである。
元は刀身に写った景色が反射して見えるほどの綺麗な刀だが、「鬼」を前にすると刀身が血のような赤に染まる。
ジャームには彼を振るった音が今まで斬られてきた者の断末魔のように聞こえる。

「ボクがするのは鬼退治、人助けはそのついでだよ」
「ボクはキミをねじ伏せられるような力なんて持ってない。でもただ一つ、必勝の策があるだけさ」
「ボクの剣に技なんて洗練されたものはないよ。ただジャームを斬るだけの野蛮な剣さ」
「敵わなきゃ利用すればいい、それだけの話じゃないかな？」
「予想通り、キミならそう動くと思ってたよ」